

年頭に当たって

当社取締役社長 三宅 誠二

新年あけましておめでとうございます。本年は記録的な暖冬となり、これが農業生産に先々どう影響するかは別として、全国的に過ごしやすい正月になったこととお喜び申し上げます。

さて新年早々、サウジとイランが国交断絶、北朝鮮の核問題といったきな臭いニュースが続いており、中国をはじめとする新興国の経済不振も影響して世界的に株価が下落するなど、国際情勢の変動が気にかかる年のはじめとなりました。昨年は農業の世界ではTPPの大筋合意といった大きな出来事に加え、安倍政権による各種農業施策の実行が進められた年でもあったといえます。また5年毎に発表される農林業センサス2015年度版が公表されました。そこで明らかになったことは、農家戸数は減少しているものの法人を含む組織経営体は着実に増加、また全国平均で10町歩以上の経営耕地面積を集積すると、全体の50%近い面積に達しており、規模の拡大が進んでいることが見て取れます。農産物の流通の面で実需を持つ需要家がより直接的に生産現場に遡及する流れが強まっていることに呼応したかのように、生産現場も変革が進んでいるわけで、農業界での市場経済化の浸透が進んでいるといえます。

私どもも、肥料等の農業資材の供給を通じ、また関係メーカーとも歩調を合せて変革が進む農業界において新たな資材の開発も行うことで聊かなりとも日本農業の発展に貢献できればと考えております。平成28年がMACジャーナルをお読みいただいている全ての方々にとり、すばらしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます

平成28年度農林水産予算が決定

～総額2兆3,091億円で前年並み

農水省は12月24日に28年度の予算を発表した。総額は2兆3,091億円で前年度の当初予算額とほぼ同じ予算（27年度予算は2兆3,090億円）となっている。（以下図参照）要求予算の内容で注目した点は水田フル活用の推進と経営所得安定対策の予算で水田活用の直接支払交付金が3,078億円と308億円増額（さらに補正予算

で160億円プラス）、競争力強化・国土強靱化のための農業農村整備事業予算が2,962億円と前年度よりも209億円増額（さらに補正予算で990億円増、うちTPP対策は940億円）となっている。2015年度のコメの生産調整を受けて16年度の生産調整を成功させるためには3,000億円台の予算確

（次ページへ続く）

平成28年度 農林水産予算		単位：億円		
	27年度予算額	28年度概算 決定額A	27年度補正追加額 補正額B	A+B
予算総額 (対前年度比)	23,090	23,091 100	4,008	27,100 117.4
公共事業費 (対前年度比)	6,592	6,761 102.6	1,448	8,209 124.5
一般公共事業費 (対前年度比)	6,399	6,569 102.6	1,290	7,859 122.8
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193	193 100	158	351 182.2
非公共事業費 (対前年度比)	16,499	16,330 99	2,560	18,890 114.5

(前ページより続く)

保は必須とされていた。農業農村整備事業費では国内農業の競争力強化のための農地集積加速化、大区画化、老朽化した施設の長寿命化等に充てられる予算となっている。心配されていた飼料用米の交付金については今年も継続になるようなので生産者にとっては一安心といったところだ。

また、27年度補正予算は総額4,008億円の内、TPP関連対策は3,122億円となっている。補正予算の目玉は505億円（基金管理団体で基金化）の産地パワーアップ事業、406.3億円の水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進、100億円の革新的技術開発・緊急展開事業等となっており、農政新時代に向けた攻めの農業基盤作りに注力した内容となっている。

トモエ肥連 全関西拡販推進部会研修会in島根

昨年11月18～19日に島根県松江市にてトモエ肥連全関西地区主催の拡販推進部会研修会が開催され、組合員、肥連事務局、エムシー・ファーターティコム、当社より総勢16名が参加があった。

研修1日目は、飯石郡飯南町の(株)島根産業を訪問。同社はトモエ化成を水稻培土の肥料として使用しており、代表取締役高木氏より工場見学・製品の説明を受けた。昭和59年に創業以来、グリーンソイルシリーズを主力に県内を中心に順調に販売されており、トモエ化成は原料として培土に添加しているが、他社の化成肥料と違い肥効が安定していると高評価を頂いている。各地域で培土等の原料向けに改めて販路拡大の目を向けてみる、いい機会になった研修であった。

次に島根米穀(株)に移動して室内研修を行った。エムシー・ファーターティコム野村技師より、平成27年度水稻試験結果の発表があり、きぬむすめ向けの一発肥料として米の匠130号と他社品との比較試験では実収で試験区が上回り他社品と遜色なく有効であると実証され、今後の拡販に向け力強い結果であった。

また、新商品として、ロングリリーフの説明があり、異常高温・農家の高齢化・面積集約化等で追肥にかかる時間、体力が足りないことを解決すべく商品化した肥効調節型流し込み液肥の普及に期待がかかる内容であった。

研修会後は宿泊地である松江市内に移動して、解禁されたばかりのカニ料理に舌鼓を打ち、大いに盛況の内に

閉会となった。全関西地区として山陰での開催は久々であったが、研修先のご紹介、会議室のご提供等地元島根米穀(株)様大変お世話になりました。有難うございました。



西部菱肥会賀詞交歓会開催

1月7日にホテルメルパルク大阪で恒例の西部菱肥会賀詞交歓会が開催され、会員、賛助メーカー、三菱商事、当社より総勢44名の参加があった。昨年三菱商事関西支社に赴任された鷹野化学品部長のご挨拶、当社三宅社長の挨拶に続き、理事長の小浦産業(株)小浦社長様より乾杯のご発声を頂き、和やかにご歓談がスタートした。来賓のご挨拶をエムシー・ファーターティコム有宗営業副本部長様、清和肥料工業村山社長様より頂戴し、監事の森六アグリ(株)石田社長様の中締めで今年の農業界・肥料業界にとって良い一年であるようにと大いに盛況の内にお開きとなった。

今年は、西部菱肥会が主催で全国ブロック交流研修会を関西にて開催予定であり、理事・運営委員の方々を中心に知恵を絞り、大勢ご来阪頂きたいと考えております。ご期待下さい。(大阪支店)

あけましておめでとうございます。今年も農業だけに限らず、様々な情報を発信していきたいと思っております。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp